



『裁断橋物語』

天正18年(1590)、堀尾吉晴の長男とされる18歳の堀尾金助は、初陣となる小田原攻めに出発しました。金助の母は祈願を兼ねて、当時、熱田神宮付近にあった裁断橋まで見送りましたが、その願いもむなしく、金助は戦地で亡くなり帰らぬ人となりました。母は供養のために私財をなげうって息子と別れた裁断橋を2回架け替えました。2回目の架け替えの際、擬宝珠には母の思いが刻まれ、日本三大母の美文として、今なお広く語り継がれています。現在、擬宝珠は名古屋屋博物館で展示され、大口町に復元された裁断橋に擬宝珠の複製が設置されています。



58歳にして大立ち回り

関ヶ原の戦い直前、浜松から越前府中に向かう途中、三河国池鯉鮒(いりぼ)において三河刈谷城主水野忠重、美濃加賀井城主・加賀井重望らと酒を酌み交わします。この時、加賀井が突然水野に斬りかかって殺害。ここで吉晴は加賀井を取り押さえて刺殺します。ところが部屋に飛び込んできた水野の家来たちは吉晴に主君を殺されたかと勘違い。吉晴は水野の家来に襲撃されます。しかし歴戦の強者吉晴、10ヶ所以上の傷を負いながら危機一髪で逃れました。頬の傷はその時に負った傷だといわれています。



恵方巻きの起源は吉晴!?

恵方巻きの起源には諸説ありますが、その一説に「節分の前日、堀尾吉晴が出陣前に太巻きのようなものを食べ、戦に挑み、大勝利したことから」という説があります。風水や方角を気にしていた吉晴は、陰陽道にも詳しくかつたよう、松江城築城の時も「鬼門封じの神社」である千手院を建て、荒神を鎮めるための祈禱槽もつくっています。また、松江城の天守地階には2本の通し柱に2枚の祈禱札を打ち付け、南西隅の礎石の下には、地祭りの鎮物をする等、築城に際し様々な祈禱を行っており、祈禱札・鎮物ともに国宝附指定となっています。

※堀尾吉晴については、まだまだ謎が多く、伝わる話には諸説あります。

堀尾吉晴公 共同研究会とは?



「堀尾吉晴共同研究会」は、堀尾吉晴に縁のある島根県松江市、島根県安来市、愛知県大口町の2市1町で構成しており、また、オブザーバーとして静岡県浜松市が参加している組織です。本研究会は、堀尾吉晴の生涯を通じた人物像を調査研究によって明らかにし、共通の歴史認識を持つとともに、関係自治体の交流を深化させ、堀尾吉晴に関する史跡の歴史的・文化的価値向上を図ることを目的としており、最終的には堀尾吉晴を題材にしたNHKの大河ドラマ化を目指しています。

堀尾吉晴に関する史料の情報提供のお願い

堀尾吉晴(及び堀尾一族)に関する史料の所在調査を行っております。史料をお持ちの場合は、「堀尾吉晴共同研究会」まで、ご連絡をお願いいたします。

お問い合わせ: 堀尾吉晴共同研究会 (事務局: 松江市役所 地域振興課内)

〒690-8540 島根県松江市末次町86番地 TEL.0852-55-5519 FAX.0852-55-5665 MAIL.chiiki@city.matsue.lg.jp